

黒崎羊二氏 連続講座 「住まいから考えるまちづくり」

—住民目線で見えるコミュニティ再生のプロセス

第2回 暮らしを支える住まいとコミュニティ

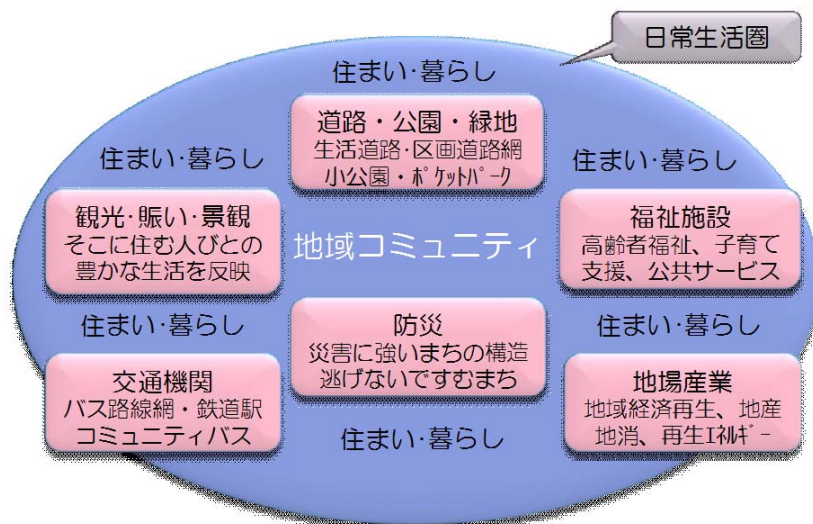
第2回講座(11月18日開催)は「暮らしを支える住まいとコミュニティ」をテーマとして行われました。今回は後半に時間を充分とり、参加者から日頃の仕事に関わる中での意見を出しながらディスカッションしました。

まちづくりの対象

人びとの豊かな暮らしをめざし、住まいの改善を通して地域コミュニティの持続的成長をはかる住民の主体的共同活動 <スライド抜粋>

参加者コメント (抜粋)

- ・ 都内で住宅設計した家が都市計画道路に当たることになり、お施主さんから相談をうけました。
- ・ 周辺住民たちが主体性を持って行政なりに要望を伝えなければ計画は変えることはできないのではないだろうか。
- ・ 主体性で変えられるものではないと思います。都市計画道路の多くは戦災復興で計画が位置づけられたもので、そもそも計画自体の論拠がきちんと出されないまま、今の時代に浮上させています。そんな横暴なやり方進められているところへ、住民の主体性でなんとかなるとは思えません。
- ・ 計画の進め方には、トップダウンとボトムアップの方式があると思います。そもそもコンサルタントがトップダウンの方式でしか計画を作れなかったのではないのでしょうか。都市計画マスタープランもその実例だと思います。
- ・ マスタープランにそもそも住まいの視点が入っていません。以前は公共住宅の建設、管理の問題が全てで、住宅全般の改善にほど遠いものでした。住生活基本計画(H18.6 施行)がさらにかけ離れたものになってしまいました。
- ・ 集団の力で知恵をつけなおすことが必要です。生活の変化を予測し、どう対応していくかが求められます。
- ・ 生活の変化に対応するシェアハウスなど、ストック改善を一定地区の事業として実施する。その方策が課題でしょう。



【次回 (毎月第三火曜日) の案内】

テーマ 「人口減少・少子高齢化への対応」

日時：12月16日(火) 19時～21時

会場：NPO 都市住宅とまちづくり研究会 (としまち研)

参加費：4,000円 (4講座毎チケット制) (新建会員及び学生は2,000円/4講座毎)

※やむをえず1講座のみ受講も承ります。